

明治天皇の御製に

一八八

ごこしへに民安かれご祈るなる

我が世をまもれ伊勢のおほかみ

いかに以て敬神崇祖の御念が厚く又民を愛しさせ賜ふ御深慮の程も洵に有り難く拜察致します。

此の頃喧しき國體明徴は申すまでもありませんが、併し學者の天皇機關説が、三十年來幾千幾萬の學徒に教へられ來つて居つても、我國體に關する國民全般の根本信念は、儼乎として微動だも致しませぬのは抑々何んの證左でありませうか。外國文明を輸入しても基礎眞髓の動かざる例は、恰も果實が接木に依りて良果を生ずる事があるも、其の接木の根基なる眞髓の如く其の血の流は實に偉大なる不變の力があるのであります。而も其の眞髓には三種の神器の徳即ち智仁勇の三徳の皇化が洽く潤つて居るものご存じます。皇

道は徳を以て治めせしめられ、霸道の如く力を以て治むるのことは異つて居ります。何んご申しても日本は根本に徳治國であります。即ち日本は上に萬世一系の皇室を戴き、其の眞髓なり「誠」なりの精神が一貫して流れて居るものであります。日本人は、祖宗より受けたる遺訓精神を奉じて、未だ曾て中斷せず變化せず、其の儘生活原理として繼承して來て居ります。日本國民は此の意義を以て生活し生存し、郷土愛となり祖國愛となり、又家族觀念を持して國家を擁護して居るものご信じます。

君民一體、忠孝一致是れ即ち我國の萬邦に冠たる所以にして牢乎として動かず、彼の國民の都合上にてカイゼルを廢したる國家とは截然として比較になりませぬ。彼の國家學者のスタイン博士も「世界中理想の國家は唯日本あるのみ」と激賞して居らるゝ通り日本の國家は至上にして外國の國家と淵源實質に於て雲泥の差があります。日本は金甌無缺の國家であります。皇室

を中心として君民一體となり毫も議論を挟むの餘地なく超然統一せられて居る國であります。一朝事あれば日の丸の御旗の下に上下一心同體となり、宮城の前に伏し拜みては眞に心から敬虔感激の涙を溢ぼし、紙幣が不兌換なつても、菊の御紋章には絶対信頼して居る國民であります。是は宇内萬邦に匹儔なき處にして一血統一人種の集合體であるといふ關係もありませう。尤も時に異人種の混入ありしも我國は古來抱擁心の仁徳を以て純日本的に順化せしめられて居ります。亦實に往古より先天的に靈妙不可思議の血性を受け繼いだる特異獨歩の國民であるが爲め存じます。外國が日本を恐るゝ唯一のものは獨り日本精神に對してのみであります。若し強いて我國民性の缺點を擧ぐれば、經濟思想の缺けて居つたここか存じますが、夫れも近年著しく發展し、殊に他に頼らず漸く獨立的に進んで來たここは最も喜ばしき傾向と存じて居ります。而して近來我商品の外國に躍進するに至りたるは、技術

の進歩は勿論又爲替相場の關係もありますけれども、一には我商人の自覺に依り從來批難されたる商品の見本と相違せる粗製等の不信用を恢復し大いに信用の増進したる結果なりと存じます。前に申しました通り商業は正道の上に立ちて有無相通じ、信用を以て利益を得るものなれば、ごうぞ此の上は信用を第一とし同士打をせず廣く世界に向つて邁進し、殊に我大阪の如きは元來上方文化として空を排し實を求むる自由獨立の處なれば其の本義の利害上よりしても大我の利を利として今一段と道德心と社會奉仕觀念を進め、以て我國唯一の大商工都市として愈々高く愈々深く名實共に美はしく備はり雄然重きを爲すに至りたいものと念じて居ります。更に多きを求むれば大國策として國を擧げての對外大經濟策を講じたいのであります。維新後大阪は一時衰微に傾きしも今日の隆昌に回復せしは何等政府の力を頼まず全く獨立奮闘の結果であります。英米の如く外國を我領土同様に化せしむるには必ずし

も武力を用ゐずとも他に國策遂行の道もあることゝ存じます。それはそれとして元來獨り商業上のみならず我國の内政外交共に目前の自己本位の小策を弄せず廣く社會に寄與する大精神を以て、信義を推し立て、進むことが終局に於ける自他共同の勝利なりと考へます。信義は家産の最も堅固なる柱であり國の礎であります。所謂「信は萬事の本」にして信即ち「誠」であり「誠」は最上の道德であります。畢竟眞の精神―「誠」は敬、愛、信の三相の作用に歸着するものご存じます。

文武天皇の詔勅に

國民道德の根本は清く淨く直き「誠」の心を以て仕ふべし

ご仰せられて御座います。

彼の教育勅語は、固より教育者に對してのみにあらず、汎く一般の臣民に對し、建國の大精神と國民道德の大本を御示しになつたものでありますか

ら、單に之を學生が儀式的に奉讀するに止めず、億兆齊しく仰ぐ一國一家の君、忠孝一心、父子一體の大精神を奉體し日夕之を躬行しなければならぬと存じます。私は今年郷里や現住の小學校の兒童數千人に「教育勅語のお話」の冊子を配付致しましたが、これも兒童を通じて父兄に勅語の御聖旨を實行して頂きたい本意に外ならないからであります。

日本國民は陛下の赤子であることの一事に至ては、恐らく何人も異論なきごころにして今更申すに及ばずご存じます。

明治天皇の明治元年三月の御宸翰に

天下億兆、一人も其處を得ざる時は、皆朕が罪なれば今日の事、朕自身骨を勞し、心志を苦しめ、艱難の先に立ち、古烈聖盡させ給ひし蹤を履み、治蹟を勤めてこそ、始めて天職を奉じて、億兆の君たる所に背かざるべし。

この詔は正しく大御親心の發露として皇國政治の大本を御示しに相成つて居るのであります。更に

明治天皇の御製に

罪あらばわれを咎めよ天津神

民はわが身の生みし子なれば

ご此の大御心を以て常に萬民に臨ませられて在らせたのであります。

今上天皇陛下御即位式の勅語に

皇祖皇宗國を建て民に臨むや、國を以て家と爲し、民を視るごこ子の如し、烈聖相承けて仁恕の化下に洽く兆民相率ゐて敬忠の俗上に奉じ、上下感孚し、君民體を一にす。是れ我が國體の精華にして當に天地と並び存するごころなり。

ご、即ち日本國體の根本を御垂示になつたもので更に「國を以て家と爲し、

民を視るごこ子の如し」ご仰せられて居ります。かやうな國柄が世界中何處を搜してありませうか。斯る仁慈の君主を戴く國は唯夫れ我日本あるのみであります。この幸福の國に生れたるものにして天下萬民何人もこの御稜威御仁徳に感激せざるものあらんやであります。茲に我々國民は大義名分を誤らず、一に「誠」を致し以て天壤無窮の皇運を扶翼し奉るの外はありませぬ。

「誠」は善の首徳にして人心の根本でありますから、前にも申述べた如く特に學校教育、家庭教育、社會教育に對し一層の熱誠を望んで止まない所であります。

附け加へて申し上げますが、新聞は社會の木鐸にして國家國民の公益を謀り、文化の開發教化の指導上に偉大なる力を有するものなれば、全國の新聞が營に營利にのみ馳せず所謂三面記事の欄を割愛して毎日必ず「教育」の欄を設け教育に關する論説は勿論、例へば信州伊那郡の農學校の勤勞教育振り或は

農村の勞働振り若くは自治獨立の實狀なり、岩手縣下の勞働更生振りなり、更に獨逸又は丁抹の勤勞振の實況を掲げ或は内外個人の善行を推獎する等各方面よりして心からして社會善導に力を注がる、ならば、社會人心の刷新上大なる寄與なりと考へて居ります。又雜誌其の他の刊行物の取締は勿論通俗教育上彼の映畫の取締乃至善用も固より緊要事と存じます。是等手近かなる際に即して改善指導すべきもの多々ありと存じます。敢て其の筋の注意活動を望んで止まざる所であります。

○ 結 論

要するに我人共に眞に「誠」の道に向つて毅然として邁進し、大いに日本精神を發揮し教育勅語の聖旨を奉體實行するならば、こゝに人心の安定を得て、平和の基礎を造り、訴訟司獄等の司法事務は僅少となり、行政上の無駄

は申すまでもなく大いに省き得られ、自然陸海軍の費用も減ずるに至りませうし、商業は繁昌となり、産業は振興し、歳出は減少して反對に歳入は大いに増加し、赤字公債克服の如きも問題でないと存じます。こゝに國民の生活も安定し、人文は正しく進展し、天下は泰平となり、國家の隆昌期して待つべきであります。而して此の「誠」は獨り我邦のみならず、更に之を萬邦に及ぼすならば、軍縮會議も、世界經濟會議も圓滿に解決し、國際聯盟も凡ゆる國際會議も權威を保ち、世界平和は完全に成立し、如何に天地が明朗化し、如何に世界が美化することとなり、如何に人類が幸福に浴することでありませうか。私は理想として眞善眞美の萬國共榮の康寧和樂の世界を冀ふものであります。縱令先進國と雖、口のみ世界の平和の美名を假用し其の實、自國本位のみ偏重して他國は軍縮せよ我は優越の軍備を保たんとして譲らず、正義人道に反し自我々々へと進み毫も自ら反省することなく、又經濟上には

需要供給の原理に逆行し、水は高きより低きに向つて流るゝの自然の原則を外れ、品質の良否價格の高低を無視し、關稅を高くし又は輸入制限を設けて自由通商を妨げ、中正の大本を阻害し、不平等を維れ事とし、隣保相愛の實なく眞に世界の平和が保たれないとすれば、獨逸の哲人シヘングラの豫言せる如く、「近代西洋文明は崩壞して再び原始的生活に復歸するも時の問題なり」と言へるは必ずしも夢想でないと考へます。現にハロルド、ベグビーは歐洲大戰を豫言し之が適中したる先例もあります。今度英國の總理大臣となりましたポールドウィンは、一昨年あたりに「歐洲大陸は全るで瘋癲病院のやうなものである」と言つて居つた通り、少しく離れて英國より冷然として之を見れば、左様な感じをなすのも當然でありませう。古諺に「天は復へすを好む」と云へるここにあります。これは白色人種と有色人種との問題にあらずして實に人間の重大問題であり自然循環の道理であります。

道は一にして中外の別なく、猶日月は天下の日月にして一國の專有すべきものにあらずと云へるが如しであります。實に「誠」は古今東西を通じて人間の基礎にして宇宙の眞理であります。元來日本精神は獨り日本のみに限ると云ふが如き小なるものではありません。況んや今日の日本は日本の日本にあらず世界の日本でありとすれば、宜しく先づ我神州よりして世界萬邦に向つて正義の下に大いに皇道精神を鼓吹宣揚し、洽く「誠」宗の信者たらしむべく指導感化すべきであること存じます。但し空元氣は禁物であり沈着慎重を要するは勿論であります。殊に外國に皇威を示すには内に協力一致の實を以てせざるべからざることには是亦當然であります。こゝに大國民の實質を充さんことを要望致します。元來日本の智は廣くして徳を含み、西洋の智は狭くして徳を含みませぬ。若し學びを進め智を磨きても情を鍛へざるごきは人間が分裂して片輪ものとなります。今日は智ありて慧なく情なく四海兄弟の實

何處にありやご問ひたいのであります。

二〇〇

誠ほご世に有がたき事はなし

誠 一つで 四海兄弟

國家は最高の道徳的存在なりご申しますが若しも世界の何れの國にても「誠」に反し、道徳に背き國際信義を無視し、誦詐欺瞞巧辭を弄し功利略奪を事とするものあらば、共存共榮の本義に反し相互破壊にして所謂自ら天に向つて唾するものご謂ふべく、天は此の「誠」なく宇宙の眞理に背くものは只惟れ亡ぼさんのみであります。茲に於て「誠」より見れば世界を統一し宇宙一界に君臨まします方は唯夫れ我日本の 天皇陛下の外にないご信じます。明治天皇は維新の詔勅に於て八紘一字の理想を明示し給ふて居ります。即ち皇徳四海に光被せんごするのであります。彼の陽に平和を唱ふるも、陰に銃を列べ劍を磨いて切々相迫るの心底は、天知る人知るご謂ふべきであ

ります。隠すより顯はるゝはなし、畢竟人は落つる處に落ち、善因善果、惡因惡果は來たる時に來たるものなりごは一點の疑はありません。皆様如何でありますか、斯の如き情勢にして列國は何時同じませうか、何時和しませうか、經濟的武裝は何時撤廢せらるゝでありますか、抜本塞源の道如何。嗟世界を左右する英米の二大國よ、眞に世界平和國際道義の爲に假面を脱ぎ心を洗ひ須らく正義人道の上に立つべきなりご露骨に叫びたいのであります。殊に英國國民は個人としては世界一の品位高く常識に富みたる好紳士でありますけれども、一度び國際問題に移らんか、國を擧げて不言の裡に着々自國本位の劃策を進行し、其の老獪なるご恠に油斷ならざる恐るべき國民にして日本精神ご相反し心服し難き處にして英國は勿論世界の爲にも甚だ遺憾ご存じます。但し彼の靜中の動は兎角動中の空動に陥り易きものゝ戒鑑ごなすべき點かご存じます。又米國ご雖世界平和を唱へ軍縮を口にするも其の實、

二〇一

軍國主義に進みつゝあり、況んやソヴィエツト聯邦に於てをやであります。そこで已むなく國防強化論が起らざるを得ないのであります。但し終局の目的は國民生活の安定を期するに外ないのであります。

私は全國の國民一同が毎朝合掌默拜し、或は神前に「誠」を祈願し、或は店頭又は居間其他隨處に常に「誠」なる文字を掲げて、之に違背せざるやうに念ふところは無論必要であり、又禮即ち「誠」であるとは存じますが、併し「誠」なるものは、唯表面だけの形にては固より未だ以て眞の根柢に觸れたものとは言へないのであります。「事に即して眞」と云ふことがありますが先づ幽顯を全觀し自己を全觀し、我を知り止まるを知り足るを知り己れに打ち克ちて私を去り、晝夜の別なく行住坐臥悉く事に即して「誠」が琴線に觸れ熱となりて顯はれ、其の姿は恰も富士山の如く「晴れてよし曇りてもよし富士の山もこの姿はかわらざりけり」と云へる通り何時何れの視角より

見ても、常に同一にして正しく而も秀麗の實あり、而して其の至誠が所謂天に通ずるものでなければならぬと存じます。

明治天皇の御製に

目に見えぬ神の心に通ふこそ

人の心の誠なりけれ

即ち至誠通神を仰せられて居ります。運は天よりも降れば地よりも湧く、併し蒔かぬ種は生えませぬ。即ち禍福は天にあらず地にあらず自ら招くのであります。神は自らを助け自らを守るものを守つて下さるものであります。自らを守らざるものは神も亦守つて下さらぬものであります。彼の天祐神助は至誠より生れ至誠より授かる賜であります。

「誠」は天の道なり。之を「誠」にするは人の道なり。即ち人は努力に依つて「誠」の道を行ひ天の道に近づくの謂にして、之が人間本來の性であり

行くべき道であり任務である。是れ人間の至高至大なる處にして禽獸と異なる所以であります。されば人として「誠」の外に道なく性なく徳なし。此の天意使命に背くものは必ず天罰神罰を免れざるものであります。彼の「俯仰天地に愧ぢず」と威張つて見ても、眞の「誠」の實がなければ何んの役にも立ちません。又「千萬人と雖吾往かん」の壯語も「誠」あつての勇氣であります。自尊心も「誠」あつて始めて光るのであります。彼の精神作興と謂ひ質實剛健と謂ふも皆「誠」より生るゝものであります。其の「誠」とは第一に私心を去ることであります。私心を去れば則ち正しく明るい眞心となり努力躍進するこゝとなります。没我の心境に入れば安心が出来て感謝の念を生じ歡喜となり永遠の希望に満ち前途洋々として眞に明るき「誠」の心となります。されば「誠」は人を動かし金石を透し天地をも貫きます。一個人と云はず、一國と云はず、世界萬國と云はず、古今を通じて文に武に、一として

「誠」の離るべからざるこゝは如上繰り返して申述べた通りであります。政治家も實業家も教育家も宗教家も將又社會事業家も眞實に「誠」より溢れ出でたる力強き道德生活に生きんこゝを熱望して止まざる處であります。

以上私が多岐に涉つて長々と申述べましたのも、畢竟人間の第一義は「誠」にして如何に知識及物質の文明が進歩しましても人として「誠」を離れては生くるものではありません。「誠」は凡ゆる人事問題の鍵であり、終始現實に息の通つた活きた「誠」が必要です。今日實際世人が餘りにも人格を目標とせず心の修養を第二とし、専ら唯金唯物に走り虚榮に迷ひ輕佻以て身を誤り世を毒するもの多きを憂ひ、此の時弊に對し殊に實業界に向つて「誠」の力と「誠」の必要とを叫んだ次第であります。而して是れ實に私の不動の信仰であります。

我國に於ては、日本精神——「誠」——を以て肇國以來未だ曾て渝ゆるこゝなき

國體の精華を尊重し、舉國一致至誠を堅持し、澎湃たる興國の意氣を以て不動の國是に向つて日々新たに邁進し、永久の平和と國利民福を圖り、以て春風駘蕩櫻の日本の隆々と彌榮えに榮えんことを皆様と共に謹みて祈願して止まざる處であります。

本年は恰も大楠公殉節六百年、又二宮尊徳先生の八十年の記念の年に當り、偶々此の「誠」に就てお話を致しましたことは、衷心竊かに喜びと致す處であります。私が本年さ、やかでありますが大楠公の銅像を、某々二小學校の校庭に建設するところなり、其の他小學教育奨励事業に聊か寄與せることも、畢竟昨年四月賜はりました勅語に「國民道德を振作し以て國運の隆盛を致すは其の淵源するところ實に小學教育にあり」と仰せられました通り、國民教育の基調は小學教育に在りとの考よりして、深く期するところがある次第であります。

如上私が敢て大膽を顧みず直言する所以のものは、熟々世上實際の出來事の由つて來るところを探究するに、事大小ことなく必ず各方面に於て多少とも夫々「徳」を缺き「誠」を缺きて天意に背反し、不純なる缺陷が存するところを痛感するからであります。故に上下貴賤貧富の別なく文武百官政黨有産階級有識者其の他衆庶に至るまで共に、道義立國の大精神に基き全幅の「誠」を捧げ、常に自己を深く反省して先づ己を直ふし、中正を執りて矯激を戒め、軌道を履みて秩序を重んじ、大勢に順應すると共に本末を誤らず、常時教育勅語を奉體して國憲を重んじ義務に従ひ、各其の本分を守りて業を勵み、浮華を戒め質實を尊び、私心を挾まず公益を圖り、小異を棄て、大同に就き、正義公道に基きて謙讓以て己を律し、渾然たる融合疏通を謀りて克く和衷協同し、一徳一心眞に億兆心を一にして國家社會に盡すを以て刻下の急務なりと信するものであります。殊に現今非常時に處するの要諦は協力一致

して一貫したる「誠」を根基とし渾身の心、渾身の力を以て不動の國策を熟慮斷行するの外何物もなしと確信し、茲に強く至誠を高唱する所以であります。「誠」は實に人として將又國家社會として萬古不易の礎石であります。

或は曰はん一瀬の説く所は古臭い道學者の口にするところにして今人の耳を傾むくるごころにあらずと、然らば天地も日月も年々歳々變らずして古臭さきにあらざるか。又曰はん今日は人力車の時代にあらずして自動車の時代なり一顧の値なしと、然るに何んぞ知らん其の自動車の世となればなる程最もより良き道を選ばざれば危険の頗る多きことを茲に御注意申上げてお答ご致します。

凡そ革新を唱へ國家の大事を成さんとする者は、金も要らぬ名も要らぬ命も要らぬといふ人にあざれば遂行の出來ざることは、以上話中に申上げました人々を見ても正しく歴史の教ゆる處であります。即ち唯「誠」のみ要る

のであります。併し政治を行ひ事業を興すには經濟と離るべからざることは申すまでもなく、只個人的に物慾を戒しむるものにして文官錢を愛せずこの語も此意味を指すのであります。人は兎角一步のここで道を誤り易いものでありますから茲に修養を必要と致します。

明治天皇御製

こもすればあらぬかたにも履み迷ひ

教へ難きは人の道なり

目に見えぬごころに神の裁きあり、聲なきごころに大衆の批判あり、蓋し大衆は邪念なく能く中正を持って賢なり。因果應報の理空しからず。汝に出でたるものは汝に還る。十目の視る處十手の指す處夫れ嚴なるかな。破壊は易く建設は難し守成に至つては更に難し。天地は正大にして國家は悠久なり。制度必ずしも人を制せず、人能く制度を制す。「天」なる哉「人」なる

哉「誠」なる哉であります。

二一〇

「誠」は正しき心の實在にして大自然の理法に適ひ最も明かに最も力強きものと信じます。之が道德の主基であり同時に人間の大本であり、これぞ洵に國運隆昌の礎であります。

天地萬物と共に呼吸し、潮の差引と共に生死し、花開き花落ち實結び實熟し、日月四季の循環するは皆是れ自然にして亦實に「誠」の本體であります。天言いはず四時行はれ百物成る。

音もなく香もなく常に天地は書かざる經をくりかへしつゝ。

野人禮に倣はず、願くは其の趣旨精神を容れられ、用語の不當を咎むるなからんことを謹みて御詫を兼ね御願ひ致して置きます。

今日は、冒頭に斷つて置きましたにも拘らず、いつか修身の先生になつたかも知れませぬ。且つ長時間に互り種々多岐多様に涉りまして恐縮に存じま

す。併し世移り時變るゝ雖變らぬものは「誠」なりけりであります。單に之を人に求むるのみならず人も亦我に求めつゝありと存じます。偶々この「誠」のお話が實業界に取りて時節柄剴切でありました爲か、皆様がよく最後まで御清聴下さいましたことは、非常に喜ばしく特に此の點を厚く感謝致しますして私の講演を終りご致します。

(終り)

生きる涼しさ誠の外に道もなき 青々

若葉して誠を見する野山かな 春水

昭和十一年八月三日 增補印刷
昭和十一年八月六日 發行

【非賣品】

編輯兼 發行人
池上虎一
大阪市北區堂山町七十番地

印刷者
大原太郎
大阪市西區京町堀上通二丁目十五番地

印刷所
大原印刷社
大阪市西區京町堀上通二丁目十五番地

終

